

祝110周年
本学をよく知るブックリスト

No.	書名	著者名	出版社	出版年
1	藤村学園七十年の歩み 東京女子体育大学沿革小史	「藤村学園七十年の歩み」 編集委員会編	藤村学園	1972
2	伊澤エイの生涯	伊澤やゑ子著	伊澤やゑ子	1981
3	藤村学園八十年のあゆみ	藤村学園八十年史 編集委員会編	藤村学園	1983
4	私の歩んで来た道	藤村トヨ著	ぎょうせい	1994
5	気骨の女 森田正馬と女子体操教育に 賭けた藤村トヨ	寺田和子著	白揚社	1997
6	東京女子体育大学・ 東京女子体育短期大学選手名鑑 1954年-1995年 主要国際競技大会出場者	掛水通子〔ほか〕編著	東京女子体育大学・ 東京女子体育短期大学	1998
7	藤村学園100年のあゆみ	藤村学園創立百周年記念 記録等作成実行委員会編集	藤村学園	2002
8	私の歩んできた道	伊澤エイ著	田川典子	2003
9	藤村トヨ研究報告書	東京女子体育大学 藤村トヨ研究会編集	東京女子体育大学	2008
10	伊澤やゑ子を偲んで	高橋明代著	小川印刷所	2010

●卒業研究のための開館時間の延長について

11月14日(水)より12月4日(火)まで卒業研究のために開館時間を延長します。

開館時間	月曜～金曜	11月17日(土)	11月24日(土)・12月1日(土)
	9時～19時	9時～15時	9時～17時

●卒業研究の探し方

皆さんは先輩方がどのようなテーマで卒業研究を書いていたのか気になりませんか？

調べたい時は、「卒業研究検索用パソコン」で検索してください。

場所は1階入館ゲート入口に入って左側です。そのパソコンで、1963年以来図書館で所蔵している過去の卒業研究が検索できます。

現物を見たい時は、1階奥の書架に1995～2011年度の卒業研究があります。(1994年以前の卒業研究は地下書庫にあります。)

また、書架の中央に、年度毎に各論文の要旨を1ページにまとめた「卒業研究摘要集録」があります。ぜひご利用ください。



●特別企画 目でみる図書館の進化

草創期の本学は、小石川、日暮里など住所を転々としてきました。吉祥寺に移転後、専門学校、短期大学となり、そして、1961(昭和36)年に国立に移転して来て大学が併設されました。1968(昭和43)年に幼児教育科創設のために旧4号館が建設されて初めて「図書館」として充実してきました。(残念ながら、図書館の写真があるのは国立移転後のみです。)

下記、左の写真は、1961(昭和36)年に国立に移転して来て最初のプレハブ校舎の中にあった図書館です。右はその後、旧4号館が建設された1968(昭和43)年当時の図書館です。その時の図書館事務長は「本大学としては、画期的な施設・設備であった」と書き残しています。

それから蔵書は年間3,000冊のペースで増加しました。やがて徐々に収容できなくなり大学の各施設6カ所、外部倉庫1カ所に分散する事態となり、旧4号館図書館建設から36年後の2004(平成16)年3月、現在の図書館が「100周年記念事業」として建設されました。その間、検索手段はカード目録から電子化した目録データベースとなり、現在はWebで携帯端末からでも検索ができるようになりました。



▲旧プレハブ校舎図書館
1961(昭和36)年9月～
1968(昭和43)年3月まで



▲旧4号館図書館
1968(昭和43)年4月～
2004(平成16)年3月まで

蔵書数の推移は以下の通りです。

蔵書冊数	1960(昭和35)年	16,516冊
50年間の変化	2011(平成23)年	181,500冊

つづいて、本学の歴史に触れてみよう!!

1階「本学関係資料コーナー」を見てください。本学関係資料の中に各70、80、100年史等、各年代の学園史とともにさまざまな本学関係資料が閲覧できます。



編集・発行：東京女子体育大学・短期大学図書館運営委員会
東京都国立市富士見台 4-30-1 TEL.042-572-4131

LIVRE

リーヴル

学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学附属図書館
2012.11 No.16

祝110周年

今年は本学にとって、記念すべき110周年にあたります。
図書館でその歴史に触れてみませんか？





おすすめの
1冊

『浮いて待て! 命を守る着衣泳』

本学学生・安倍吾有さんのご両親、安倍淳さん、志摩子さんよりご恵贈いただきました。本書は、2012(平成24)年6月25日の「教育医事新聞」に安倍淳さんへのインタビューとともに紹介されています。(以下、掲載記事より抜粋)

『安倍氏は地元の野蒜小学校で04年から毎年、着衣泳の授業をボランティアで実施してきた。あの震災の日、避難してきた住民で混雑する野蒜小体育館に濁流が流入し、渦を巻いた。水位は3m以上。小学校6年生の女兒は着衣泳の授業で学んだ背浮き動作を思い出し「浮いて救助を待つこと」に集中し、無事救助された。(中略)「私たちが実践してきた着衣泳の講習が極限の水難現場で生かされたこととなります」と安倍氏。』

ご自身も、大けがをされながら津波に流されて7kmを漂流し、奇跡的に生還された体験をお持ちの安倍淳さん。『セルフレスキューの観点から「水泳」「着衣泳」の考え方が変わりつつありますので、学生さんにとりまして参考になるのではと存じます。』と、いただいたお手紙に記されておりました。ぜひ、ご一読ください。(図書館推薦)



◎『浮いて待て! 命を守る着衣泳』(斎藤秀俊 著/新潟日報事業社)



おすすめの
1冊

『脳を創る読書 ~なぜ「紙の本」が人にとって必要なか~』

初めて大学の教壇に立った私にとって、「自分で考えられる」大学生を育てるためには、どのような授業方法がよいか頭を悩ませています。そんな時出会ったのがこの本です。

筆者は、言語脳科学を研究している科学者として、『考える力』を養うには、読書が一番である。自分の脳に入ってくる情報量が少ないほど、脳は想像して補う力を発揮する。また、相手に伝える情報量が多いほど、脳はさらに想像力を高める。すなわち、「考える力」を養うには、「読む」と「話す」ことが大切であり、「書く」という行為は、無駄なように見えるが、考える力を鍛えることになる』と述べています。筆者は、もちろん、電子情報機器をすべて否定しているわけではなく、その使い分けが大切であるとも述べています。一読してみませんか。(教職実践研究室・上原 健夫)



◎脳を創る読書—なぜ「紙の本」が人にとって必要なか(酒井邦嘉 著/美楽堂・日本社)



◎気骨の女 森田正馬と女子体操教育に賭けた藤村トヨ(寺田和子 著/白揚社)

『気骨の女 森田正馬と女子体操教育に賭けた藤村トヨ』

高校生の頃、細かいことを悩むのを克服したいと思っていて、心理学の世界に「森田療法」というものがあることを知りました。悩みは心の中にあるから、排除することなく「あるがままに」受け入れるというのです。この「逆転の発想」を、今でも私は大切にしています。

その森田療法を創始した森田正馬先生は、心理療法に禅や東洋の思想を取り入れた世界的に有名な精神医学者ですが、創立当初経営が苦しかった本学(私立東京女子体操音楽学校)の心理学の講師を藤村トヨ先生から依頼され、無給で教壇に立つてくださったのです。この本は、禅の思想を大切にされた藤村トヨ先生と森田正馬先生について書かれた本です。本学の歴史に思いを馳せながらぜひ読んでみてください。(教育心理研究室・大石 千歳)



おすすめの
1冊



学生の
おすすめ

『ココロの教科書』

本屋さんでふと目にとまったのがこの本でした。『ココロの教科書』という難しそうな題名ですが、そこには幸せになる新しいココロの使い方が書いてありました。

私は、普段ちょっとした嫌なことがあった時に、そのことばかり考えてしまい、気持ちが沈んだままでしたが、この本に書いてある「ちょっとしたこと」を実行するだけで、嫌なことでも幸せに変えることができるようになりました。他にも、幸せになるためのおまじないがたくさん書いてあります。みなさんもジーニー(潜在意識)とお友達になってみませんか?

(体育学部3年・薄 理世)



◎ココロの教科書(ひすいこたろう・スズキケンジ 著/大和書房)



◎文明の生態史観(梅棹忠夫 著/中央公論社)

『文明の生態史観』

この本は、動物学者が体験をもとにして書いた独創的な文明論。

専門領域にとらわれず、体験から世界をどう見るかを論じているところは、体育の学生にも刺激的だろう。皆さんには、ぜひ世界を見る目を養ってほしいと思う。

その意味でも一読を勧めたい本だ。

また、この本はとにかく読みやすい。短くてしかも漢字が少なく、段落や小項目の作りかたなどもおおいに参考になる。

実は、この小文もまねたつもりだが…。(生徒指導研究室・林 和男)



おすすめの
1冊



◎伊澤やゑ子を偲んで(高橋明代 著/小川印刷所)

『伊澤やゑ子を偲んで』

当大学の初代学長伊澤エイの授業で、ピアノを弾きダンスも踊っていた女性がいきました。

尊敬し慕っていた人と嫁姑の間柄になり、四年制大学設立には大変な苦勞をした姑のエイを夫と共に支え、後には藤村女子中学高等学校で教育、学校経営にも

心血を注ぐ一方、家庭ではどこでも居る優しい「おばあちゃん」でいた人。明治、大正、昭和、平成と力強く生き抜いた女性がここにも居た事を知っていただきたいと思い、まとめた本です。

(昭和34年度短大保健体育科卒・高橋 明代)



本学卒業生の
著書